

釈尊の誕生から出家まで 無学求道作成「お釈迦さんが変わった方法」より
釈尊の生存年代について

紀元前 463 年～同 383 年、紀元前 624 年～同 544 年
の二つの説があり北に伝えられた資料と南に伝えられた資料の記述の違いによって年代に違いがあるからだそうです。

インドのサーキャ（釈迦）族の長（おさ）、あるいは王の子として生まれました。そしてなに不自由のない生活をしていました。

今までは 若く、健康で、死ぬ事さえ考えなかったが。

いずれは老い、またいつ病気になるかもしれない、またいずれは死ななければならぬ、という不安に取り付かれました。（三苦といいます）

そして本当の平安、永遠の安らぎを求めて出家する事を決意しました。
3 人の妻たちと子どもたちを残して出家しました。

ヨガの世界で学んだもの

釈尊はマガダ国のラジャガハ（王舎城）で、当時有名な二人の仙人に師事して修行しました。

ひとりにはアララ・カーラーマでどんなものにも執着しないとい「無所有の境地」に達していた人です。

もう一人はウッタカ・ラーマブッタですべて考える働きを捨てて「非想非非想の三昧」に達した人でした。

釈尊はこの二人の仙人について修行し、それぞれの奥義を短い期間で体得したといわれます。

難行苦行もしました

しかし「三苦」の解決が得られず、ネーランジャラー川のほとりでその村に伝わる難行苦行に取り組みました。いろいろな難行苦行に取り組んでいくうちに苦行の無益さを知りました。

疲れた体を引きずるようにしてネーランジャラー川で沐浴して、体を休めていると、村娘のスジャータが見つめて乳粥（ちちがゆ）を供養しました。釈尊は体力を回復してガヤーの町外れに行きました。そこで一本のアシュバッタ樹をみつけてここを修行の場としました。この樹は釈尊が悟りを開いたことにちなみ「菩提樹」と呼ばれるようになりました。

参考文献 人間ブッダ 田上太秀著 レグルス文庫